

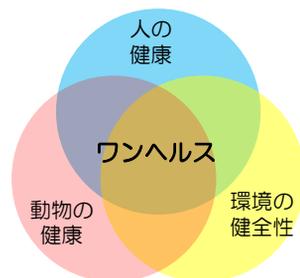
# 動物由来感染症に注意しましょう

## 動物由来感染症とは

動物由来感染症は、動物から人にうつる病気のことです。「人獣共通感染症」や「人と動物の共通感染症」と呼ぶこともあります。動物由来感染症には、人も動物も発症するもの、動物は無症状で人だけが発症するものなど、様々なものがあります。

## ワンヘルス（One Health）と動物由来感染症

全ての感染症のおよそ半分は動物由来感染症であると言われていています。動物由来感染症を防ぐためには、人の健康を考えるだけでなく、人の健康・動物の健康・環境の健全性を1つとして考える「ワンヘルス」が重要です。



## 主な動物由来感染症

犬や猫、鳥類などから直接感染するもの	狂犬病、猫ひっかき病、オウム病、カブノサイトファーガ感染症、コリネバクテリウム・ウルセランス感染症 など
ダニや蚊などの節足動物を介して感染するもの	日本紅斑熱、つつが虫病、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、日本脳炎、デング熱、ジカウイルス感染症 など
水や土などの環境から感染するもの	レプトスピラ症 など
食べ物を介して感染するもの	腸管出血性大腸菌感染症、E型肝炎、カンピロバクター症、サルモネラ症、アニサキス症、ノロウイルス感染症 など

### 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

主にウイルスに感染したマダニに咬まれることで感染します。主な症状は、発熱、全身倦怠感、下痢や嘔吐などの消化器症状で、重症化し、死に至ることもあります。

マダニに刺されないような対策が重要です（詳しくは裏面参照）。



### カブノサイトファーガ感染症

いつも身近にいる犬や猫などの口の中に普通に見られる細菌で、主に犬や猫などに咬まれたり、引っ掻かれたり、傷口をなめられたりして感染します。主な症状は、発熱、倦怠感、腹痛、吐き気、頭痛などですが、まれに重症化して敗血症や髄膜炎を起こし、死に至ることがあります。

動物との節度ある触れ合いを心がけ、咬まれたり、引っ掻かれたりしないように気を付け、触れ合った後は手を洗うなどの対策が重要です。



### デング熱、ジカウイルス感染症

主にウイルスに感染した蚊に刺されることで感染します。主な症状は、発熱、発疹、結膜炎、筋肉痛などです。現在、日本国内での流行はありませんが、東南アジア、アフリカ、中南米などの熱帯・亜熱帯地域では流行おり、注意が必要です。



### 日本脳炎

ブタから蚊を介して人に感染します。初期症状は発熱、頭痛、全身倦怠感、嘔吐、腹痛などですが、その後神経症状が現れ、後遺症が残ったり死に至ったりすることがあります。ワクチンがあるため、日本国内で人の感染はほとんどありませんが、ブタでの感染は今でも見つかっています。

より詳しく知りたい方はこちら

人と動物の共通感染症を知っていますか  
(福岡県ホームページ)

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/hitotodoubutu.html>



# 動物由来感染症を防ぐためには

## 過剰な触れ合いは控えましょう

細菌やウイルス等が動物の口の中にいることがあるので、口移しでエサを与えたり、スプーンや箸を共用するのは止めましょう。また、動物との入浴や布団に入れて寝ることも、濃厚接触となるので止めましょう。



## 野生動物の家庭での飼育や野外での接触は避けましょう

のら猫・のら犬や野生動物はどのような病原体を保有しているかわかりません。安易に触らないようにしましょう。また、家庭での野生動物の飼育は避けましょう。なお、野生動物の肉など（ジビエ）を食べる場合は、中心部までしっかり加熱しましょう。



## 動物の身の回りは清潔にしましょう

飼っている動物はブラッシング、つめ切り等、こまめに手入れをするとともに寝床も清潔にしておきましょう。小屋や鳥かご等は毎日よく掃除をして清潔に保ちましょう。タオルや敷物、水槽等は細菌が増殖しやすいので、こまめな洗浄が必要です。



## 生肉は与えてはいけません

餌として、生肉を与えてはいけません。肉を与えるときは十分に加熱して与えるようにしましょう。生肉や加熱不十分な肉には、有害な寄生虫や食中毒菌、薬剤耐性菌が存在する可能性があります。食べ残しなどは速やかに処理しましょう。



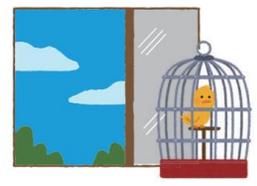
## 動物にさわったら、必ず手洗い等しましょう

動物は、自身には病気を起こさなくても、ヒトに病気を起こす病原体を持っていたり、毛にカビの菌糸や寄生虫の卵等がついていることがあります。また、動物やその唾液や粘液に触れた手で、知らないうちに自分の目や口、傷口等をさわってしまうこともあるので、動物に触れたら必ず流水で手洗い等しましょう。



## 室内で鳥を飼育する時は換気を心がけましょう

羽毛や乾燥した排せつ物、じんあい塵埃等が室内に充満しやすくなります。ケージやその周り、室内のこまめな清掃のほか、定期的に換気に努めましょう。



## 糞尿は速やかに処理しましょう

糞中で病原体が増殖したり、糞尿が乾燥して中の病原体が空気中を漂うことがあります。糞尿に直接ふれたり病原体を吸い込んだりしないよう気をつけ、早くこまめに処理しましょう。



## 砂場や公園で遊んだら、必ず手を洗いましょう

動物が排せつを行いがちな砂場や公園は注意が必要です。特に子供の砂遊び、ガーデニングで草むしりや土いじりをした後は、十分に手を洗いましょう。また、糞を見つけたら速やかに処理しましょう。



## マダニ・蚊の対策を行いましょう

野山に入る時は、マダニに刺されないよう注意が必要です。虫よけ剤を使う、長袖長ズボンを着用する、山を下りた後はすぐにお風呂やシャワーなどで肌にマダニが付いていないか確認する、ペットのダニ駆除を行うなどの方法が有効です。

